

# 歴史ある汐見橋の観光案内図を再現！

## ～2021年5月28日、新観光案内図をお披露目～

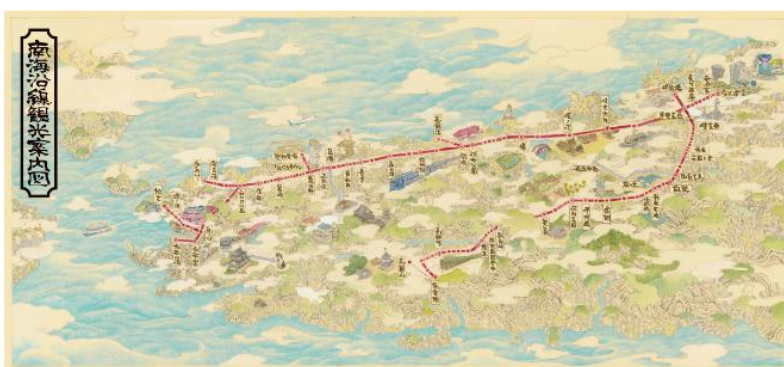
南海電鉄(社長：遠北 光彦)では、高野線の起点駅である「汐見橋駅」周辺エリアの賑わい創出を目的に、2016年まで同駅に設置していた「観光案内図(以下、旧観光案内図)」を再現し、2021年5月28日から新たな観光案内図を掲出します。

これまで同駅周辺エリアでは、株式会社KASIKKAを中心に、2018年度には「桜川&芦原橋テキナ(ワークショップやアート作品の展示等)」、2019年度には「メリーゴミスマス 廃材を使ってクリスマスオーナメントを作ってツリーを飾ろう」など、地域活性化を目的としたイベントを実施してきました。そして2020年度には、同エリアのシンボル・象徴としての期待を込めて、汐見橋駅の駅舎外壁に大規模な「アート作品」を描き、「ナニワ区民まつりオンライン」にて全国へ向けた完成披露イベントを行うなど、情報発信を行ってまいりました。

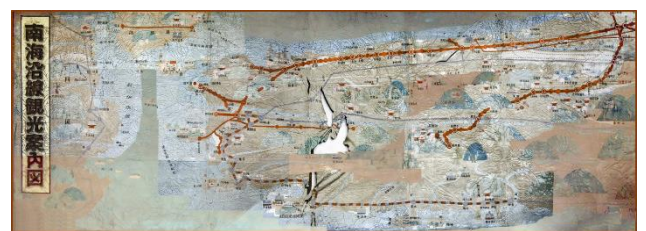
上記のとおり継続的に取組みを続けてきた中で、駅舎内においても象徴となるような作品を掲げ「地元の皆さまを中心にこれからも愛され続けるような汐見橋駅にしていきたい」という思いから、このたびの施策を決定しました。

再現にあたっては、旧観光案内図のテイストを残しつつ、新たに生まれ変わったエリア(例：なんばエリア、関空エリア、高野山エリア、加太エリア等)の具現方法に工夫を加えながら、現代風にアレンジしました。

詳細は、以下のとおりです。



新観光案内図(2021年5月～)



旧観光案内図



### 1. 新観光案内図の概要

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| (1) 設置日時 | 2021年5月28日(金)11時～   |
| (2) 設置場所 | 高野線 汐見橋駅 改札機上部壁面    |
| (3) サイズ  | 幅3,594mm × 縦1,675mm |
| (4) 作者   | 絵：堀 としかず 文字：岡本 晃典   |

(5) コンセプト

「あの頃といま 変わったものと変わらないもの」

大きく様変わりした沿線エリアを具現化する一方で、旧観光案内図のテイストを残しながら“今もむかしも変わらない”南海沿線の「温かさ」「ぬくもり」を表現しました。

(6) 詳細



**関西国際空港の開業**  
**特急ラピート**  
 (1994年運行開始)



**沿線の玄関口・なんばのまちづくり**  
**なんばスカイオ**  
 (2018年開業)




**加太さかな線プロジェクト(2014年開始)**  
 左から めでたいでんしゃ「さち」「かい」「なな」



**高野山と高野山麓エリアの活性化**  
**こうや花鉄道 天空**  
 (2009年運行開始)

**2. 参考**

(1) 汐見橋駅(住所:大阪市浪速区桜川三丁目8番74号)について

高野鉄道当時の明治33年(1900年)8月に汐見橋～堺東間が開通し、翌月に営業を開始。当初の駅名は「道頓堀駅」だが、駅の北側、西道頓堀川に架かっている橋の名にちなんで現在の駅名となり、大正14年(1925年)3月に高野線と南海本線の連絡線が完成するまで、高野山方面(高野下駅まで)への直通運転はすべて同駅を発着していた。その後、大阪市内の交通事情の変化などに伴って、岸里玉出駅までの折り返し運転のみとなった。2019年度の1日平均乗降人員は647人。

(2) トイレ美装化(アート化)について

2021年4月にトイレ美装化を完了。トイレ内に額縁を設置し、トイレ自体をギャラリーのように設えて汐見橋駅を訪れた方々に楽しんでもらえるようダイアグラムや過去のコンパスカードなどを掲出。内装は、汐見橋のレトロな雰囲気を活かすため、縦長の木目調タイルやアンティークなモザイクタイルを選んだ。



以上